

JAPAN KAMPO MEDICINES MANUFACTURERS ASSOCIATION (JKMA)

日本漢方生薬製剤協会

GUIDE 2012

自然とともに健やかに





日本漢方生薬製剤協会

芳井 順一

会長挨拶

日本漢方生薬製剤協会（以下、日漢協）は会員会社の事業分野が多岐に亘ることから、5つの業態別会議と6つの機能別委員会を組織し、活動しております。

医療用漢方製剤の薬価制度改革に関しましては、日漢協の個別要望事項として「保険医療上必要性の高い医薬品の薬価算定方式」「生薬の最低薬価ルールの導入」の2点について、日薬連を通して要望して参りました。その結果、「生薬の最低薬価ルールの導入」に関しては最低薬価ルールが適用となりました。一方、「保険医療上必要性の高い医薬品の薬価算定方式」については、その対象を明確にしつつ、平成24年度以降、具体的な評価方法等の検討や検証をすすめることとされました。日漢協として全力を傾注して参りたいと考えております。

一般用漢方製剤に関しましては、薬事・食品衛生審議会一般用医薬品部会において31処方の追加が了承され、一般用漢方製剤承認基準の改正通知が8月30日付けで発出されました。これら追加処方に関連して「使用上の注意」の作成を進めております。

次に、ISO/TC249に関してですが、5月に第3回本会議が韓国で開催されました。日漢協として国際対応WGから委員を派遣して対応していますが、中国、韓国等は国を挙げて取り組んでいる問題でもあります。今後も日本東洋医学サミット会議と共に、行政への働きかけも継続して参ります。

さらに、中国から調達している原料生薬の価格の高騰の問題があります。原料生薬の80%強を中国からの輸入に依存している状況から、この高騰が続けば日本の伝統医学である漢方医学というソフトそのものが途絶えてしまいます。漢方製剤、生薬製剤および生薬を存続させるため、多くのステークホルダーに理解をいただくことが喫緊の課題であると考えます。

今年度をスタートとする「中長期事業計画2012（5ヵ年計画）」を策定いたしました。平成24年度業態別会議の重点課題を次の通りとしました。

医療用漢方製剤会議：「品質の良い製品を安定的に供給できるよう薬価制度改革に関する対応の推進、流通適正化および適正使用の推進、安全性確保・適正使用推進のためのMR教育の実施、エビデンスデータの集積」

生薬会議：「原料生薬の品質確保と安定確保のための適確な対応」

一般用漢方製剤会議：「一般用漢方製剤の普及、振興に向けた適正使用推進のための情報提供活動と適確な対応」

生薬製剤会議：「新たな生薬製剤の承認取得に向けたモデルとなる生薬製剤の承認基準（案）の検討ならびに関係団体も含めた諸調整の仕組み作り」

原薬エキス会議：「日局収載漢方エキス等の改正および新収載対応、局外生規改正への協力」

今後の主な課題として、生物多様性条約の伝統的知識の問題、17局改正に向けた重金属試験および残留溶媒試験への対応、PIC/S加盟申請に伴う漢方GMP自主基準改定への対応など、当協会が取り組まなければならない課題は山積していますが、協会一丸となって対応して参りたいと思います。

日漢協の概要

★設立

日漢協は、日本国内で生薬を原料とした漢方製剤・生薬製剤の製造業者（輸入販売業者を含む）と販売業者並びに生薬原料関係業者によって、昭和58（1983）年7月21日に設立されました。

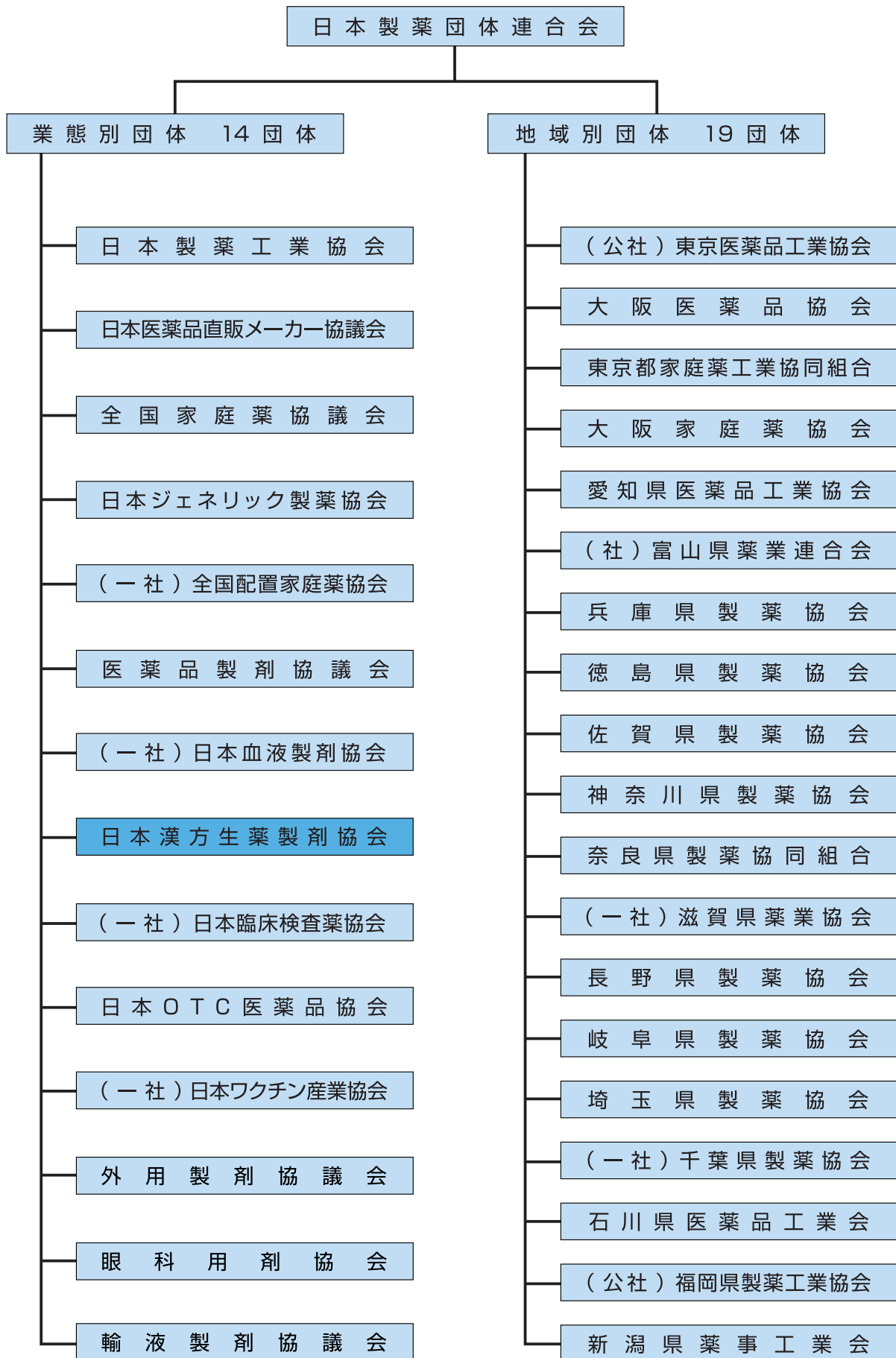
★目的

日漢協は、会員相互の密接な連携のもと、高品質な漢方製剤、生薬製剤および生薬を継続的に安定供給し、その役割と機能を高めることによって、漢方製剤、生薬製剤および生薬の普及、定着と発展を図り、医薬品業界の発展と国民の皆様の健康に貢献することを目的としております。

★現況

日漢協は、日本の全医薬品産業を代表する組織である日本製薬団体連合会（日薬連）に業態別団体として加盟しており、平成24（2012）年9月1日現在の会員会社は74社となっております。

関連団体



(一社):一般社団法人 (公社):公益社団法人

平成24年度 事業計画

■事業計画の策定にあたって

「漢方・生薬」新たな飛躍の時代を迎えて — 中長期事業計画2012（5ヵ年計画）スタートの年 —

平成24年度は、日漢協「中長期事業計画2012(5ヵ年計画)」の初年度にあたり、協会が丸となって、総力を結集する大変重要な年度と位置づけています。また、協会創立30周年を来年度に控え万全の体制を整えていきます。

昨年は、医療用漢方製剤および生薬に関しては、日薬連に対し「保険医療上必要性の高い医薬品の安定供給の新たな薬価制度の導入」に関する提案と「生薬に関しては、最低薬価制度の適用」についても提案を行いました。また、一般用漢方製剤については、平成20年9月に承認基準が設定され、その後23処方、さらに昨年4月には27処方の追加が行われ、今後さらなる処方の追加が予定されており、一般用漢方製剤によるセルフメディケーションへの大きな貢献が期待されています。

一方、当業界を取り巻く環境変化は厳しさを増し、国際的には、「ISO/TC249中医学世界標準化問題の第2回ハーグ会議における懸案事項への対策」や「PIC/S加盟に関連して漢方GMP自主基準改定への対応」などがあります。また、国内的には、「生薬等の放射性物質に関する取り組み」、「一般用漢方製剤承認基準の適正使用推進に伴う『使用上の注意』記載要綱改訂への対応」、「特恵関税制度継続のための『平成24年度税制改正大綱』への改正要望に向けた対応」などを含め、多くの課題に対応してきました。

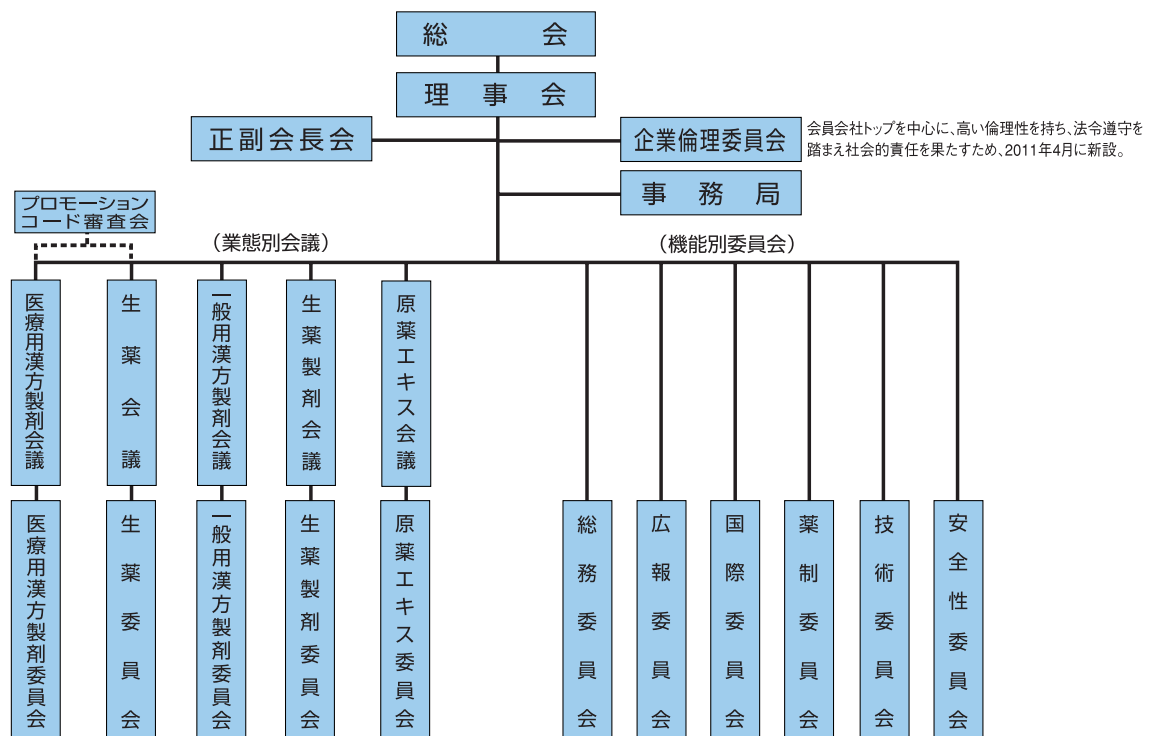
また、昨年度より協会として取り組んでいる重要性の高い事業としては、「企業活動と医療機関等との関係における透明性ガイドライン」に基づく対応、企業倫理やコンプライアンスを推進するための「企業行動憲章」「コンプライアンス・プログラム・ガイドライン」の制定と普及啓発活動などがあげられます。

今年度の各業態別会議の大きな柱となる課題は、

- ①医療用漢方製剤会議は、「品質の良い製品を安定的に供給できるよう薬価制度改革に関する対応の推進、流通適正化及び適正使用の推進、安全性確保・適正使用推進のためのMR教育の実施、エビデンスデータの集積」
 - ②生薬会議は、「原料生薬の品質確保と安定確保のための適確な対応」
 - ③一般用漢方製剤会議は、「一般用漢方製剤の普及、振興に向けた適正使用推進のための情報提供活動と適確な対応」
 - ④生薬製剤会議は、「新たな生薬製剤の承認取得に向けたモデルとなる生薬製剤の承認基準(案)の検討ならびに関係団体も含めた諸調整の仕組み作り」
 - ⑤原薬エキス会議は、「日局収載漢方エキス等の改正および新収載対応、局外生規改正への協力」
- などがあります。

以上の通り、医療環境の変化と国民の健康への関心の高まりの中、新たな医療ニーズに応えるべく、下記の平成24年度の事業方針を持って取り組みの推進を図っていきます。

日本漢方生薬製剤協会組織図



平成24年度 日漢協事業方針

1. 生薬ならびに生薬を原料とした最終製品の品質確保の強化

●担当：生薬会議、医療用漢方製剤会議、一般用漢方製剤会議、生薬製剤会議、原薬エキス会議、技術委員会

- 1) 生薬ならびに生薬を原料とした最終製品の残留農薬、重金属、微生物など安全性に関わる品質確保(試験法・基準化等)に努める。
- 2) 日局未収載生薬の収載並びに既収載生薬の見直しをさらに推進する。また漢方エキスの日局収載についても引き続き積極的に対応する。
- 3) GMP対応の強化、特に漢方GMPの主眼である生薬管理責任者の育成強化を図る。また、漢方GMPも含めGMPに関する日中二国間の相互理解をさらに深める。
- 4) 生薬ならびに生薬を原料とした最終製品の放射性物質への取り組みの強化を図る。
- 5) 生薬栽培で使用されている農薬の実態調査を進める。
- 6) 日本薬局方外生薬規格への改定等に協力する。

2. 原料生薬の安定確保の推進

●担当：生薬会議、国際委員会

- 1) 生薬の安定確保のための施策を検討推進するとともに種苗の確保を図る。
- 2) 各国における規制状況の把握をし、適確な対応を行う。
- 3) 日本における生薬使用量調査など、原料生薬に関する流通実態を把握し、適確な対応を行なう。
- 4) 生薬栽培技術に関する調査と技術の継承を図る。
- 5) 中国で使用されている農薬の使用実態について調査する。
- 6) 絶滅のおそれのある野生動植物種についてワシントン条約の遵守・推奨を図り、必要な生薬の確保について対応する。
- 7) 国際機関との人的交流を深め、情報収集を図る。

3. 一般用漢方製剤・生薬製剤等の開発と育成活動の強化

●担当：一般用漢方製剤会議、生薬製剤会議、原薬エキス会議、薬制委員会、技術委員会

- 1) 一般用漢方製剤承認基準への対応を図る。
- 2) 生薬・漢方エキス等の日局等収載に伴う一般用漢方製剤・生薬製剤の対応を推進する。
- 3) 一般用漢方製剤・生薬製剤および生薬の許認可に関する対応を推進する。
- 4) 原薬エキスの規格・試験の設定に関し適確に対応する。
- 5) 一般用医薬品の販売制度に関連した調査研究を推進し、関係団体と協力して対応する。
- 6) 一般用漢方製剤の適正使用を推進する。
- 7) 生薬製剤の開発と育成に関する活動を強化する。

4. 漢方製剤・生薬製剤・生薬の安全性確保と適正使用の推進

●担当：安全性委員会、医療用漢方製剤会議、生薬会議、一般用漢方製剤会議、生薬製剤会議、広報委員会

- 1) 安全性情報の会員会社間における一層の共有化を図り、会員各社の安全対策を強化する。
- 2) 一般用漢方製剤の「使用上の注意」に関する指針となる小冊子を作成する。
- 3) 「医療用漢方製剤・生薬プロモーションコード」改定情報を随時周知徹底し、適正使用を推進する。
- 4) 会員会社の医薬情報担当者(MR)に対して安全性確保および適正使用推進に関する教育を徹底する。

5. 漢方製剤・生薬製剤・生薬に関するエビデンスデータの集積

●担当：医療用漢方製剤会議、生薬会議、一般用漢方製剤会議、生薬製剤会議、安全性委員会

- 1) 漢方製剤・生薬製剤・生薬に関するエビデンスデータを幅広く集積し、日本東洋医学会が推進する臨床エビデンスレポートのまとめや、エビデンスデータの国内診療ガイドラインへの反映作業に協力する。
- 2) 医療用漢方製剤の再評価に対し適切に対応する。

6. 医療用漢方製剤・生薬にかかわる薬価制度への対応

●担当：医療用漢方製剤会議、生薬会議

- 1) 平成24年4月実施の薬価改定および薬価制度改革に関し、問題点の抽出と対応を図る。

7. 漢方製剤・生薬製剤・生薬に関する国際調和と国際交流

●担当：国際委員会、医療用漢方製剤会議、生薬会議、一般用漢方製剤会議、生薬製剤会議、原薬エキス会議、広報委員会、技術委員会

- 1) 関係国(特に中国)と定期的国際交流を図り、相互理解と関係向上に努める。
- 2) 国際的な情勢を把握、解析し、各委員会に協力し、会員へ情報発信する。
- 3) ISO/TC249の情勢を把握、解析し、的確な対応を行う。
- 4) 生物多様性条約のABSにおける遺伝資源、派生物、伝統的知識の取り扱い方を把握し適確な対応を行う。
- 5) PIC/Sなど、国際調和に向けた動きに的確に対応する。
- 6) 三極の局方調和(ICH)や西太平洋地域での生薬に関する国際調和(FHH)など、国際調和に適確に対応する。

8. 医療関係者および患者・消費者などに対する啓発活動の強化

●担当：広報委員会、医療用漢方製剤会議、一般用漢方製剤会議、生薬製剤会議、原薬エキス会議、国際委員会、技術委員会

- 1) 対象者や内容、開催時期などを工夫して効果的な講演会・セミナー等を実施する。
- 2) 一般用ホームページを活用して、患者・消費者などに対する啓発活動を一層推進する。
- 3) 漢方製剤、生薬製剤、生薬などの用語解説を含めた業界PRツールの作成と、それを用いた啓発活動を展開する
- 4) 一般用ホームページ、会員専用ホームページおよびニューズレターの活用用途を明確にし、効果的な情報提供を推進する。

9. 日漢協としての団体活動の強化

●担当：全業態別会議、全機能別委員会

- 1) 日漢協が漢方製剤・生薬製剤・生薬を代表する団体となるべく、その活動を強化するとともに、日薬連など関係諸団体との連携強化を図っていく。
- 2) 新医薬品産業ビジョンとそのアクションプランに対し、適確な対応を図る。
- 3) 事務局機能を強化するとともに、組織機能の充実を図る。
- 4) 会員会社のコンプライアンス意識を醸成し、高い倫理観をもって行動推進する。
- 5) 会員会社の環境意識を高め、環境活動を推進する。

【医療用漢方製剤会議】

1. 平成24年度薬価制度改革での「保険医療上必要性の高い医薬品の薬価改定方式」の導入、漢方製剤・生薬への適用に向け、日薬連との連携を強化して、中医協における業界専門委員の活動をサポートした。中医協薬価専門部会における審議の結果、平成26年度の薬価改定を目指し継続検討されることになった。
2. 「漢方薬処方実態調査」の継続した最新データを得るため、再度調査を実施し、公表した。「現在、漢方製剤を処方している」と答えた医師は89%にのぼる等、漢方製剤処方実態は多くの指標で前回の調査結果より向上していた。
3. 製薬協及び日薬連からの検討依頼を受け、医療用医薬品を取り扱う会社を対象とした「企業活動と医療機関等の関係の透明性ガイドライン」を策定した。
4. 「MR漢方教本「Ⅱ」」を修正、配布した。
5. 日本東洋医学会EBM特別委員会に協力して、「漢方治療エビデンスレポート 2010」までの全てのRCTを、世界的なRCTデータベースであるThe Cochrane Library (CENTRAL)に収録した。また、「漢方治療エビデンスレポート Appendix 2011」等を作成した。

【生薬会議】

1. 平成20年度原料生薬使用量等調査を小冊子化し、協会ホームページにも掲載した。引き続き平成21～22年度分の調査を継続中である。
2. タイソウの使用農薬調査を実施中である。また、チンピの使用農薬調査論文の概要を協会ホームページに掲載した。
3. 薬用植物の国内栽培で使用する農薬を確保するため、農林水産消費安全技術センターと連携し「適用作物別表」へ66生薬の掲載を要望した。
4. 日局既収載生薬の改正提案を行い、16項目の改正が了承された。局外生規の改正に向けて検討を行った。

【一般用漢方製剤会議】

1. 厚生労働省から新一般用漢方210処方の第二次承認基準27処方追加の通知され、これに関わる対応を行った。
2. 漢方製剤のリスク区分見直しが行われ、付加条件とされた販売時の補助ツール作成を検討することとした。

【生薬製剤会議】

1. 生薬製剤の活性化のため承認基準の拡大に向けた活動を進めた。
2. 行政官、医師、生薬研究者などの有識者と意見交換し、連携して承認基準を策定できるよう環境整備を進めた。

【原薬エキス会議】

1. 第16改正日本薬局方の製剤総則の大改正において、チンキ剤と流エキス剤の工業的製法を追記した。
2. 局外生規を改定すべく、国立衛研および生薬関係団体とワーキンググループを組織し、検討を行った。
3. チンキ剤、流エキス剤、単味生薬エキスなどの規格等について調査し、小冊子にまとめた。

【総務委員会】

1. 「企業行動検証」、「コンプライアンス・プログラム・ガイドライン」を策定した。
2. 福島第一原子力発電所の事故に伴う「放射性物質補償検討チーム」を立ち上げ、補償関係を協会内で取りまとめ、日薬連と厚労省に報告した。
3. 『中期事業計画2012(5ヵ年計画)－「漢方・生薬」新たな飛躍の時代を迎えて－』を策定した。

【広報委員会】

1. 一般生活者に対する啓発活動の一環として、共催セミナーと主催セミナーを開催した。
2. 行政・業界団体教育機関等に対する啓発活動の一環として、日漢協ニューズレターと日漢協ガイドを発刊した。
3. 日漢協ガイドの英語版を作成し、ホームページに掲示した。

【国際委員会】

1. 中医学ISO標準化、生物多様性条約の生薬、漢方製剤、生薬製剤に関して、情報収集、解析し、対応を協議するため、国際対応WGにて検討を開始した。
2. 中医学ISO本会議およびワーキンググループの開催に伴う新たな対応のため、業界への影響の把握に努めている。

【薬制委員会】

1. 一般用医薬品販売制度の生薬成分および漢方製剤のリスク区分の見直し、一般用漢方製剤承認基準の改定に対して対応をした。
2. 日薬連をはじめ他団体との連携を通じて規制緩和、薬事制度関連事項についての活動を推進した。

【技術委員会】

1. 福島第一原子力発電所の事故に伴い「生薬等の放射性物質測定ガイドライン」を策定し、日薬連を通し、厚労省に報告した。
2. PIC/S加盟申請に向けて、日漢協の「漢方製剤・生薬製剤の製造管理および品質管理に関する基準」の改定、「生薬および漢方生薬製剤の製造管理および品質管理に関する基準」を策定し日薬連自主基準として発出された。

【安全委員会】

1. 芍薬甘草湯、大建中湯の間質性肺炎の追記を含め計5品目について、「使用上の注意」改訂を実施した。
2. 一般用医薬品の添付文書記載要領が10年ぶりに改訂されたことに伴い、一般用漢方製剤の添付文書記載要領の原案を作成した。

「業態別会議」「機能別委員会」の役割

医療用漢方製剤会議

医療用漢方製剤会議は、医療用漢方製剤を取り扱う会員会社および医療用漢方製剤の原薬エキスを扱う会員会社15社で構成される。



●議長
芳井順一・(株)ツムラ

流通適正化部会

●部会長
小笠原秀一郎・クラシエ薬品(株)

有用性研究部会

●部会長
新井一郎・(株)ツムラ



医療用漢方製剤委員会
●委員長
豊川峻輔・(株)ツムラ

教育研修部会

●部会長
石田雅規・(株)ツムラ

保険薬価研究部会

●部会長
安藤潤・(株)ツムラ

1. 薬価等を中心とした医療保険制度に関する事項(生薬会議と共同実施)
2. 医療用漢方製剤に係わる公正競争規約、プロモーションコードに関する事項
3. 医療用漢方製剤・生薬プロモーションコード等の周知徹底による適正使用推進に関する事項
4. 医薬情報担当者(医療用漢方製剤)の教育全般に関する事項
5. 医療用漢方製剤の安全性確保・適正使用推進のための医薬情報担当者教育に関する事項
6. 医療用漢方製剤のエビデンスデータ集積等の有用性に関する事項

生薬会議

生薬会議は、原料生薬を取り扱う会員会社(自家消費・販売)および「調剤用」などの最終製品たる生薬を取り扱う会員会社36社で構成される。



●議長
内田尚和・(株)ウチダ和漢薬

生薬栽培部会

●部会長
吉村宏昭・(株)ツムラ

生薬企画部会

●部会長
佐々木博・日本粉末薬品(株)



生薬委員会
●委員長
浅間宏志・(株)ウチダ和漢薬

生薬流通部会

●部会長
秋葉秀一郎・(株)ウチダ和漢薬

1. 生薬の品質に関わる事項
2. 生薬に係る局方収載及び局外生規に関する事項
3. 生薬に係る残留農薬等の不純物に関する事項
4. 薬価等を中心とした医療保険制度に関する事項
(医療用漢方製剤会議と共同実施)
5. 中国における農薬の使用実態調査
6. 原料生薬の流通実態の調査・把握
7. 生薬の栽培(国内外)に関わる事項
8. ワシントン条約に関わる事項
9. 生薬に係る食薬区分に関する事項

一般用漢方製剤会議

一般用漢方製剤会議は、一般用漢方製剤を取り扱う会員会社43社で構成される。



●議長
小沢博・クラシエ薬品(株)

処方部会
●部会長
高橋喜久美・(株)ツムラ

適正使用推進部会
●部会長
小笠原秀一郎・クラシエ薬品(株)



一般用漢方製剤委員会
●委員長
西山隆・クラシエ薬品(株)

くすり相談部会
●部会長
森慶二・小太郎漢方製薬(株)

1. 一般用漢方製剤の許認可、品質確保等に関する事項
2. 一般用漢方製剤の適正使用推進に関する事項
3. 一般用漢方製剤の情報提供に関する事項
4. 一般用漢方処方の見直し(新210処方)に関する事項

生薬製剤会議

生薬製剤会議は、生薬を配合した一般用医薬品を取り扱う会員会社33社で構成される。



●議長
小林豊・小林製薬(株)

制度研究部会
●部会長
池上敬彦・大正製薬(株)



生薬製剤委員会
●委員長
和田篤敬・小林製薬(株)

製剤開発部会
●部会長
若林健一・小林製薬(株)

1. 生薬製剤の許認可、品質確保等に関する事項
2. 生薬製剤の適正使用推進に関する事項
3. 生薬製剤の情報提供に関する事項

原薬エキス会議

原薬エキス会議は、チンキ剤、乾燥エキス剤など中間原料の各種エキスを製造している会員会社8社で構成される。



●議長
桑野彰一・日本粉末薬品(株)

1. 原薬エキスに係る公定書収載に関する事項
2. 原薬エキスの製造用水に関する事項
3. 原薬エキスに係る薬事・法規に関する事項
4. 原薬エキスの品質に関する事項



原薬エキス委員会
●委員長
佐々木博・日本粉末薬品(株)

総務委員会



●委員長

総務部会

●部会長

秋田富夫・(株)ツムラ

企画部会

●部会長

松本良三・小太郎漢方製薬(株)

環境部会

●部会長

歌川博幸・(株)ツムラ

1. 協会の予算・決算等の管理に関わる事項
2. 協会の事業報告・事業計画の策定
3. 協会活動の効率化の推進
4. 委員会・組織など協会組織体の検討
5. 会則・諸規定の見直し整備に関わる事項
6. 地球温暖化対策への取り組みに関わる事項
7. 協会会員会社向け講演会の企画・運営に関わる事項
8. 業態別会議の運営サポート
9. 業態別会議と機能別委員会の仲介業務
10. 企業倫理に関する実務

広報委員会



●委員長

中島実・(株)ツムラ

1. 協会活動の広報に関する事項
2. 漢方・生薬の啓発活動に関する事項
3. 報道機関等の取材対応に関する事項
4. ホームページの維持管理に関する事項

国際委員会



●委員長

塩本秀己・大正製薬(株)

1. 漢方・生薬等に関する国際交流の推進
2. 漢方・生薬等に係る国際情報の収集と共有化に関する事項
3. その他国際業務に関わる事項

薬制委員会



●委員長

栗田宏一・クラシエ薬品(株)

1. 薬事制度に関する事項
2. 漢方・生薬製剤の薬事法関連法規および関係通知の調査研究
3. 規制緩和推進に関する事項
4. 関係行政機関および諸団体との連絡並びに意見具申
5. 食薬区分に関わる事項

技術委員会



●委員長

富塚弘之・(株)ツムラ

試験法部会

●部会長

近藤誠三・小太郎漢方製薬(株)

不純物試験法部会

●部会長

杉本智潮・救心製薬(株)

技術品質部会

●部会長

片桐仁史・(株)ウチダ和漢薬

生薬品質部会

●部会長

横倉胤夫・日本粉末薬品(株)

1. 製剤・原料等の品質に関わる事項
2. 局方収載に関わる事項
3. 残留農薬等不純物に関わる事項
4. 医薬品GQP/GMPに関わる事項
5. 国際調和(PIC/S、FHH、ICHなど)における品質に関わる事項

安全性委員会



●委員長

再評価部会

●部会長

上之園秀基・(株)ツムラ

1. 協会統一「使用上の注意」改訂等の安全対策に関わる事項
2. 漢方・生薬製剤の安全確保と適正使用推進に関わる事項
3. 各種安全性情報(一般情勢・学術情報)の共有・検討に関わる事項
4. 行政および薬業他団体との連携と意見具申
5. 医療用漢方製剤の再評価に関する事項

プロモーションコード審査会

プロモーションコード審査会は、医療用漢方製剤・生薬のプロモーションの適正な実施と確保を推進し、医療用漢方製剤会議・生薬会議に参加する会員会社のうち5社で構成される。



●代表委員

小笠原秀一郎・クラシエ薬品(株)

製品情報概要実務部会

●部会長

山村敏弘・(株)ツムラ

1. プロモーションコードに抵触する事項の審査に関する事項
2. 製品情報概要の審査に関する事項

役員一覧

(50音順)

役名	氏名	会社名	役職
会長	芳井 順一	株式会社ツムラ	取締役会長
副会長	内田 尚和	株式会社ウチダ和漢薬	代表取締役社長
同	小沢 博	クラシエ薬品株式会社	代表取締役社長
同	大西 政夫	小太郎漢方製薬株式会社	代表取締役社長
同	小林 豊	小林製薬株式会社	代表取締役社長
同	桑野 彰一	日本粉末薬品株式会社	代表取締役社長
常務理事	渡邊 喜久彦	日本漢方生薬製剤協会	
理事	牛丸 理	アルプス薬品工業株式会社	代表取締役社長
同	鳥居 正男	エスエス製薬株式会社	代表取締役会長
同	森 清子	大杉製薬株式会社	代表取締役社長
同	太田 美明	株式会社太田胃散	代表取締役社長
同	辻 将央	大峰堂薬品工業株式会社	代表取締役社長
同	堀 正典	救心製薬株式会社	代表取締役社長
同	高橋 邦夫	劑盛堂薬品株式会社	代表取締役社長
同	阪本 勝義	株式会社阪本漢法製薬	代表取締役社長
同	佐藤 誠一	佐藤製薬株式会社	代表取締役社長
同	渡邊 康一	三宝製薬株式会社	代表取締役社長
同	増渕 猛善	三和生薬株式会社	代表取締役社長
同	佐々木 正則	ジェーピーエス製薬株式会社	代表取締役社長
同	波留 亨一	伸和製薬株式会社	代表取締役社長
同	伊部 幸顕	ゼリア新薬工業株式会社	代表取締役社長
同	西井 良樹	第一三共ヘルスケア株式会社	代表取締役社長
同	柴田 高	大幸薬品株式会社	代表取締役社長
同	上原 明	大正製薬株式会社	代表取締役会長
同	小林 将之	大鵬薬品工業株式会社	代表取締役社長
同	杉本 雅史	武田薬品工業株式会社	ヘルスケアカンパニープレジデント
同	建林 佳壯	株式会社建林松鶴堂	代表取締役社長
同	大字 祥仁	帝國漢方製薬株式会社	代表取締役社長
同	栃本 和男	株式会社栃本天海堂	代表取締役社長
同	佐々 義廣	日水製薬株式会社	代表取締役社長執行役員
同	尾崎 幸雄	松浦薬業株式会社	代表取締役社長
同	塩澤 太朗	養命酒製造株式会社	代表取締役社長
同	藤井 隆太	株式会社龍角散	代表取締役社長
同	吉野 俊昭	ロート製薬株式会社	代表取締役社長(COO)
同	田中和 雄	株式会社和漢薬研究所	代表取締役会長
監事	水野 昌樹	アスゲン製薬株式会社	代表取締役社長
同	大草 貴之	大草薬品株式会社	代表取締役社長
同	湧永 寛仁	湧永製薬株式会社	代表取締役社長
会頭	風間 八左衛門	株式会社ツムラ	日漢協前会長
顧問	伊藤 敏雄	株式会社ウチダ和漢薬	日漢協元副会長
同	喜里山 隆之	カネボウ薬品株式会社	日漢協元会長
同	中川 健	カネボウ薬品株式会社	日漢協元副会長
同	水野 陽介	カネボウ薬品株式会社	日漢協元副会長
同	三谷 康人	カネボウ薬品株式会社	日漢協元会長
同	大西 重樹	クラシエ薬品株式会社	日漢協前副会長
同	今泉 英壽	株式会社第一三共ヘルスケア	日漢協元副会長
同	桑野 輝一	日本粉末薬品株式会社	日漢協元副会長
事務局長	石原 猛	日本漢方生薬製剤協会	

※会頭・顧問は退任時会社名

会 員 一 覧

(50音順)

平成24年9月1日現在

会社名	〒	住 所	電話番号
アスゲン製薬株式会社	461-8531	愛知県名古屋市東区泉2-28-8	052-931-1212
甘利香辛食品株式会社	612-8081	京都府京都市伏見区新町13丁目295	075-621-2447
アルプス薬品工業株式会社	509-4241	岐阜県飛騨市古川町向町2-10-50	0577-73-2021
イスクラ産業株式会社	103-0027	東京都中央区日本橋1-14-2	03-3281-3367
一元製薬株式会社	171-0043	東京都豊島区要町3-4-10	03-3957-2997
株式会社ウチダ和漢薬	116-8571	東京都荒川区東日暮里4-4-10	03-3803-9656
エスエス製薬株式会社	103-8481	東京都中央区日本橋浜町2-12-4	03-3668-4511
大草薬品株式会社	238-0023	神奈川県横須賀市森崎1-17-15	046-834-1193
大杉製薬株式会社	545-0002	大阪府大阪市阿倍野区天王寺町南1-1-2	06-6629-1716
株式会社太田胃散	112-0011	東京都文京区千石2-3-2	03-3944-1311
大峰堂薬品工業株式会社	635-0051	奈良県大和高田市根成柿574	0745-22-3601
株式会社カーヤ	564-0062	大阪府吹田市垂水町3-4-11	06-6368-9730
株式会社金井藤吉商店	101-0044	東京都千代田区鍛冶町1-9-11 石川C Oビル	03-3256-1028
株式会社紀伊国屋漢薬局	101-0021	東京都千代田区外神田1-2-14	03-3255-2771
救心製薬株式会社	166-8533	東京都杉並区和田1-21-7	03-5385-3211
クラシエ薬品株式会社	108-8080	東京都港区海岸3-20-20 ヨコソーレインボータワー6F	03-5446-3300
小城製薬株式会社	541-0045	大阪府大阪市中央区道修町2-5-8	06-6231-1803
小太郎漢方製薬株式会社	531-0071	大阪府大阪市北区中津2-5-23	06-6371-9106
小西製薬株式会社	579-8012	大阪府東大阪市上石切町2-33-11	072-981-2429
小林製薬株式会社	541-0045	大阪府大阪市中央区道修町4-4-10 KDX小林道修町ビル	06-6222-0897
割盛堂薬品株式会社	640-8323	和歌山県和歌山市太田二丁目8-31	073-472-3111
株式会社阪本漢法製薬	530-0057	大阪府大阪市北区曾根崎2-7-4	06-6131-1200
佐藤製薬株式会社	107-0051	東京都港区元赤坂1-5-27 AHCビル	03-5412-7310
株式会社三九製薬	930-0314	富山県中新川郡上市町若杉55	076-472-1011
三恵製薬株式会社	146-0082	東京都大田区池上3-10-14	03-3751-1771
三宝製薬株式会社	161-8541	東京都新宿区下落合2-3-18	03-3952-0231
三和生薬株式会社	321-0905	栃木県宇都宮市平出工業団地6-1	028-661-2411
ジェーピーエス製薬株式会社	224-0023	神奈川県横浜市都筑区東山田4-42-22	045-593-2050
新生薬品工業株式会社	635-0103	奈良県高市郡高取町大字清水谷1269	0744-52-3330
伸和製薬株式会社	103-0014	東京都中央区日本橋蛸殻町1-29-1 日本橋蛸殻町東急ビル5F	03-3639-9771
新和物産株式会社	541-0045	大阪府大阪市中央区道修町1-5-3	06-6202-4671
有限会社杉原達二商店	136-0071	東京都江東区亀戸2-7-10	03-3637-1453
ゼリア新薬工業株式会社	103-8351	東京都中央区日本橋小舟町10-11	03-3663-2351
全薬工業株式会社	112-8650	東京都文京区大塚5-6-15	03-3946-1111
第一三共ヘルスケア株式会社	103-8234	東京都中央区日本橋3-14-10	03-5255-6239
大晃生薬有限会社	464-0084	愛知県名古屋市千種区松軒1-5-12	052-722-2205
大幸薬品株式会社	564-0032	大阪府吹田市市内本町3-34-14	06-6382-1021
太虎精堂製薬株式会社	651-0076	兵庫県神戸市中央区吾妻通2-1-27	078-232-1015
大正製薬株式会社	170-8633	東京都豊島区高田3-24-1	03-3985-1111
大鵬薬品工業株式会社	101-8444	東京都千代田区神田錦町1-27	03-3294-4527

会社名	〒	住 所	電話番号
株式会社タキザワ漢方廠	330-0804	埼玉県さいたま市大宮区堀の内町2-623-1	048-687-4455
武田薬品工業株式会社	103-8668	東京都中央区日本橋2-12-10	03-3278-2501
株式会社建林松鶴堂	110-0015	東京都台東区東上野4-3-1	03-3843-3831
株式会社ツムラ	107-8521	東京都港区赤坂2-17-11 赤坂シグマタワービル	03-6361-7201
帝國漢方製薬株式会社	769-2701	香川県東かがわ市湊636-1	0879-25-2221
東亜薬品株式会社	939-3548	富山県富山市三郷26	076-478-5100
陶陶酒製造株式会社	162-0826	東京都新宿区天神町6番地	03-5229-1011
株式会社東洋薬行	113-0033	東京都文京区本郷6-19-7	03-3813-2263
株式会社栃本天海堂	530-0053	大阪府大阪市北区末広町3-21	06-6312-8425
長野県生薬株式会社	388-8006	長野県長野市篠ノ井御幣川879-2	026-293-6671
長野県製薬株式会社	397-0201	長野県木曾郡王滝村此の島100-1	0264-46-3003
有限会社荷居屋	424-0815	静岡県静岡市清水区江尻東1-3-13	054-366-0218
日医工株式会社	930-8583	富山県富山市総曲輪1-6-21	076-432-2121
日水製薬株式会社	110-8736	東京都台東区上野3-23-9	03-5846-5611
日本新薬株式会社	601-8550	京都府京都市南区吉祥院西ノ庄門口町14	075-321-1111
日本粉末薬品株式会社	541-0045	大阪府大阪市中央区道修町2-5-11	06-6201-3801
日野薬品株式会社	541-0045	大阪府大阪市中央区道修町2-3-15	06-6231-5847
フィプロ製薬株式会社	123-0863	東京都足立区谷在家3-10-6	03-3855-7011
福田商店	633-0054	奈良県桜井市阿部新町477	0744-42-2307
福田龍株式会社	530-0047	大阪府大阪市北区西天満1-5-11	06-6364-5861
本草製薬株式会社	468-0046	愛知県名古屋市天白区古川町125	052-892-1287
松浦薬業株式会社	466-0054	愛知県名古屋市昭和区円上町24-21	052-883-5151
三国株式会社	541-0045	大阪府大阪市中央区道修町2-4-10	06-6231-2357
三星製薬株式会社	639-2216	奈良県御所市153	0745-65-2130
株式会社宮忠	541-0046	大阪府大阪市中央区平野町1-5-15	06-6203-7161
メルスモン製薬株式会社	332-0003	埼玉県川口市東領家2-35-6	048-223-1755
ハツ目製薬株式会社	134-0091	東京都江戸川区船堀2-14-14	03-3680-0005
株式会社ヤマダ薬研	577-0807	大阪府東大阪市菱屋西4-1-19	06-6722-0586
山本漢方製薬株式会社	485-0035	愛知県小牧市多気東町156	0568-77-2211
養命酒製造株式会社	150-8563	東京都渋谷区南平台町16-25	03-3462-8111
株式会社龍角散	101-0031	東京都千代田区東神田2-5-12	03-3866-1177
ロート製薬株式会社	544-8666	大阪府大阪市生野区巽西1-8-1	06-6758-1231
株式会社和漢薬研究所	160-0022	東京都新宿区新宿1-29-8	03-3354-0681
湧永製薬株式会社	532-0003	大阪府大阪市淀川区宮原4-5-36	06-6350-3555

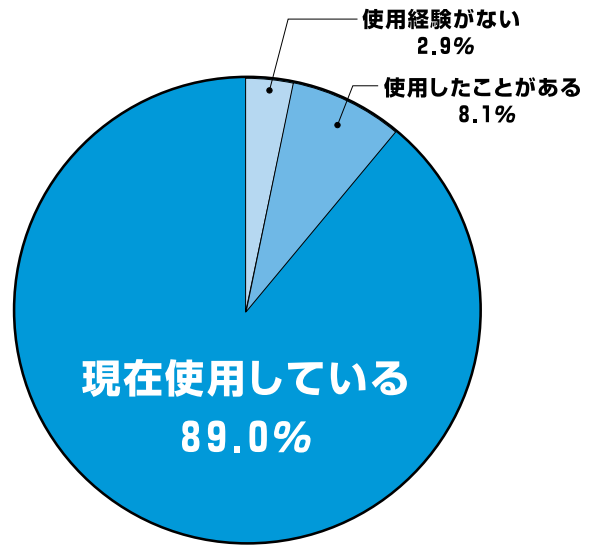
現在、医師の約9割が漢方薬を処方しています。

日本漢方生薬製剤協会が実施した「漢方薬処方実態調査」(2011年)によれば、全体の89.0%の医師が漢方薬を処方していると回答しています。前回(2008年)の同様の調査と比べると5.5ポイント向上しています。漢方薬治療の科学的根拠(エビデンス)がより一層解明され、漢方薬処方量が増加している環境のもと、漢方薬処方実態は多くの指標で前回の調査結果より向上しています。

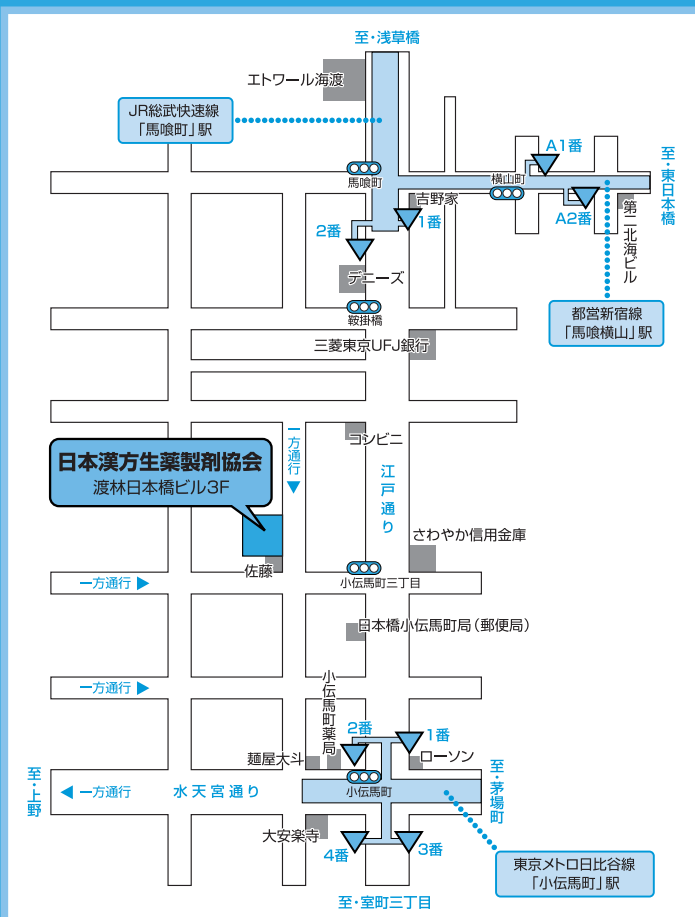
【主な指標】

●漢方製剤を現在使用している	89.0%	(前回 83.5%)
●漢方製剤を第一選択薬とする場合がある	59.0%	(// 52.7%)
●治療効果が高い	50.2%	(// 43.4%)
●満足度が高い	53.6%	(// 49.0%)
●効果が不十分	23.2%	(// 32.7%)
●エビデンスが十分でない	34.8%	(// 39.8%)

漢方薬処方実態調査



※全国インターネット調査 日本の医師627人
(診療科目別構成比は前回調査と同様に平成16年厚生労働省データに準拠。ただし、歯科、眼科、美容外科、理学診療科等を除く)
(2011年9月/日本漢方生薬製剤協会調査)



- 東京メトロ日比谷線「小伝馬町」駅下車(2番出口)…徒歩3分
- JR総武快速線「馬喰町」駅下車(1番出口)…徒歩3分
- 都営地下鉄新宿線「馬喰横山」駅下車(A1・A2番出口)…徒歩5分

※JR総武快速線「馬喰町」駅と、都営地下鉄新宿線「馬喰横山」駅は地下で接続して相互に行き来できるようになっていますので、出口番号にご注意下さい。

〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町16-19
渡林日本橋ビル3F

TEL 03-3662-5757 FAX 03-3662-5809
<http://www.nikkankyo.org/>

企画・編集/日漢協広報委員会 平成24年9月制作